

第2節 家での勉強

1. 家庭学習の頻度

【家庭での学習習慣は、第1回調査から大きく変化した。「ほとんど毎日する」が28.2%から22.0%へと減少し、「家ではほとんど勉強しない」が17.3%から23.4%へと増加をみた。家庭での学習習慣を保持する層が減少し、全体として家庭学習の習慣が失われる方向へとシフトした。】(図1-9~11)

Q3

家での勉強についてうかがいます。
(学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます)

A. あなたはふだん、家でどのくらい勉強をしますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

今回の調査では、家での学習の習慣を、①週に何日くらい勉強をするか、②学習時間、③テスト前の勉強の開始時期という3つの側面からとらえた。さらに、学校週5日制の影

響をみるために、学習時間については、平日、日曜日、学校が休みの土曜日の3つの場合に分けて尋ねた。

まず、家で週に何日くらい勉強するかである。全体としてみると、「ほとんど毎日する(6~7日)」が22.0%、「週に半分以上する(4~5日)」が22.9%であり、両者を合わせると44.9%が週に4日ないし5日以上学習する習慣をもっている。逆にいえば、過半数は家庭学習定着型ではない。他方、「家ではほとんど勉強しない」と答えた生徒は23.4%と2割を超えている。

家庭での学習習慣は、第1回調査から大きく変化した(図1-9)。「ほとんど毎日する」が28.2%から22.0%へと減少し、「家ではほとんど勉強しない」が17.3%から23.4%へと増加をみた。家庭での学習習慣を保持する層が減少し、全体として家庭学習の習慣が失われる方向へとシフトした。

図1-9 家での勉強の頻度(第1回との比較)

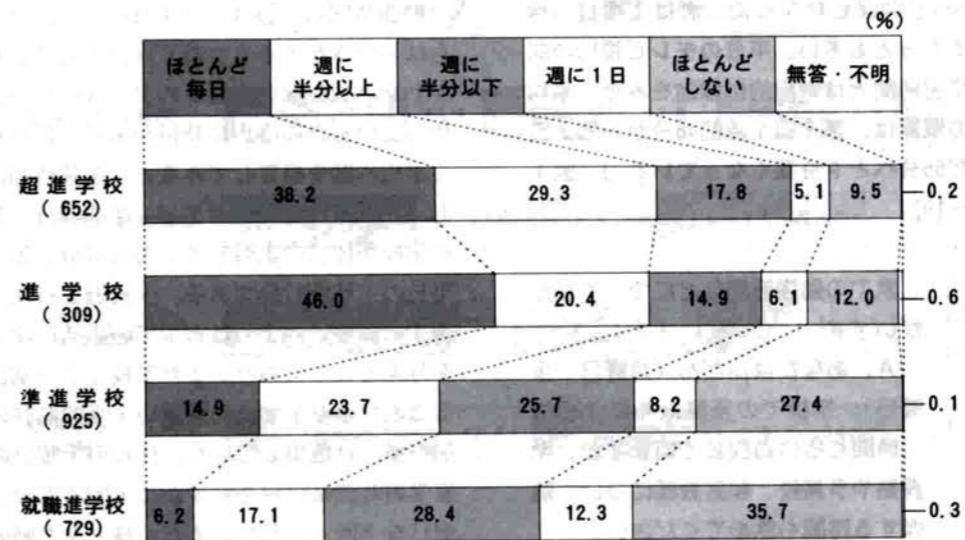


注) ()内はサンプル数。

これを、高校の進学状況別および成績の自己評価別にみると、図1-10、図1-11のようになる。高校の進学状況別には、進学校で「ほとんど毎日」がもっとも多く(46.0%)、超進学校の38.2%を上回る。準進学校、就職進学校で「ほとんど毎日する」のはそれぞれ14.9%、6.2%にすぎず、4人に1人から3

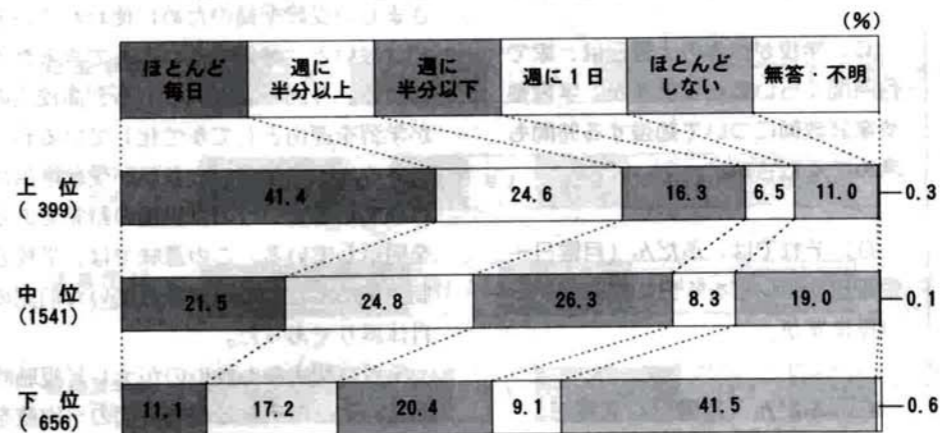
人に1人は、「ほとんどしない」生徒である。成績の自己評価別にみると、成績が上がるほど勉強日数が多くなる。成績下位者の4割以上は、家で「ほとんど勉強しない」。これらの数値は、進学者が少ない高校や成績下位者における、深刻な学習習慣の欠如を物語っている。

図1-10 家での勉強の頻度(高校の進学状況別)



注) ()内はサンプル数。

図1-11 家での勉強の頻度(成績の自己評価別)



注) ()内はサンプル数。

2. 勉強時間、テレビ視聴時間、就寝時間

【平日の家での平均学習時間は、第1回調査の1時間32分から1時間17分へと、15分減少した。勉強時間はもっとも長いのが日曜日で1時間35分、第二に学校が休日の土曜日で1時間21分、第三に平日の1時間17分である。休日の土曜日の家庭学習時間は平日をわずかに上回るものの日曜日を下回っており、また「ほとんど勉強しなかった」者は土曜日(休日)でもっとも多い。平日のテレビ視聴時間は、学習時間とは対照的に増加をみた。平均時間の概算は、第1回1時間46分から第2回1時間55分へと9分長くなっている。】(図1-12~19)

Q17

家での勉強時間などについてうかがいます。

A. あなたはふだん(月曜日~金曜日)、学校での授業以外に1日に何時間くらい勉強していますか。学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。

B. 日曜日は、家で何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。

C. 学校が休みの土曜日は、家で何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。

D. それでは、ふだん(月曜日~金曜日)テレビを1日に何時間くらい見ますか。

E. ふだん(月曜日~金曜日)、何時頃に寝ますか。

〈勉強時間とテレビの視聴時間〉

前項では家庭での学習習慣を、学習の頻度の観点からとらえた。次に1日あたりの平均的な学習時間を見てみよう。①平日(月曜日から金曜日)、②日曜日、③学校が休みの土曜日を比較し、また比較の対象として④テレビ視聴時間を示したのが、図1-12である。

勉強時間の回答は、いずれの日についてもばらつきが大きく、長く学習する者とわずかしら学習しない(ほとんどしない)者に分化しているという点に特徴がある。各分布から平均時間を概算してみると、勉強時間は、もっとも長いのが日曜日で1時間35分、第二に学校が休日の土曜日で1時間21分、第三に平日の1時間17分である。学校週5日制(隔週)のねらいの1つは青少年の生活にゆとりを与えることにあり、また学校週5日制にすることによる土曜日の塾通い・受験勉強の増加を世論は危惧していた。休日の土曜日の家庭学習時間は平日をわずかに上回るものの日曜日を下回っており、また「ほとんど勉強しなかった」者は土曜日(休日)でもっとも多い。

先の観点からするならば、この調査結果から、学校週5日制は一定の成果をもたらしている、あるいは少なくとも休日の土曜日がさまざまな受験準備のために使われているわけではないと、評価することもできるだろう。ただし、今回の調査はむしろ、高校生の生活が学習を理由として多忙化しているわけではないこと、高校生の大多数が受験準備に忙殺されているというのは世論の錯覚であることを明示している。この意味では、学校週5日制実施にあたって危惧されていた前記の仮説自体誤りであった。

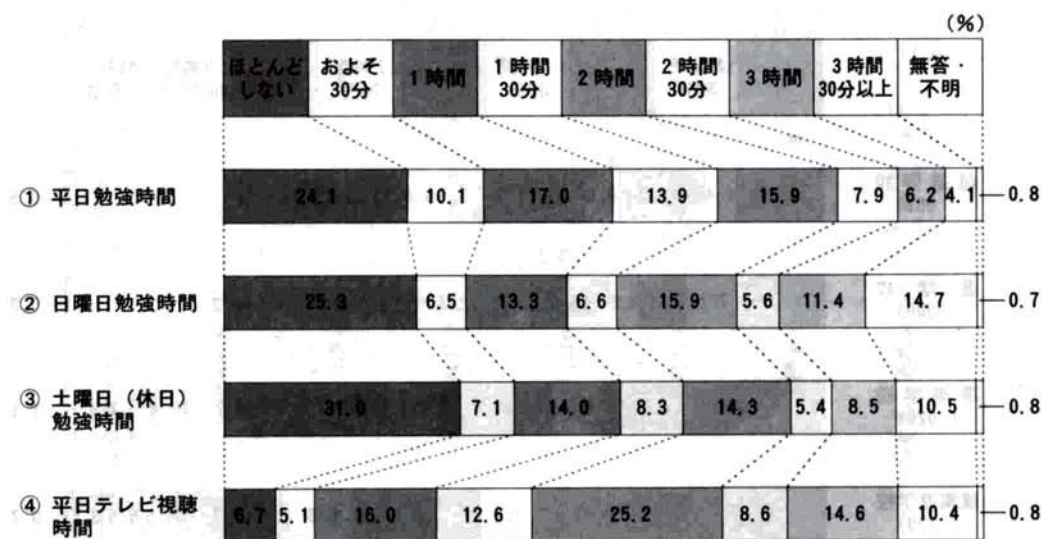
学習時間よりも長いのがテレビ視聴時間である。平日のテレビ視聴時間の平均値を概算すると、ほとんど2時間に近い1時間55分であり、勉強時間の1時間17分を大幅に上回る。

〈高校の進学状況別にみた勉強時間とテレビ視聴時間〉

平日、日曜日、休日の土曜日の勉強時間を高校の進学状況別にみると(図1-13~15)、進学者の多い高校ほどおおむね「ほとんど勉強しない」が少なく、長時間勉強する者が多い傾向がある。ただし、第2ランクの「進学校」は特異な傾向を示している。進学校では、「ほとんどしない」者の比率が超進学校(第1ランク)と同程度か多い一方で、3時間30

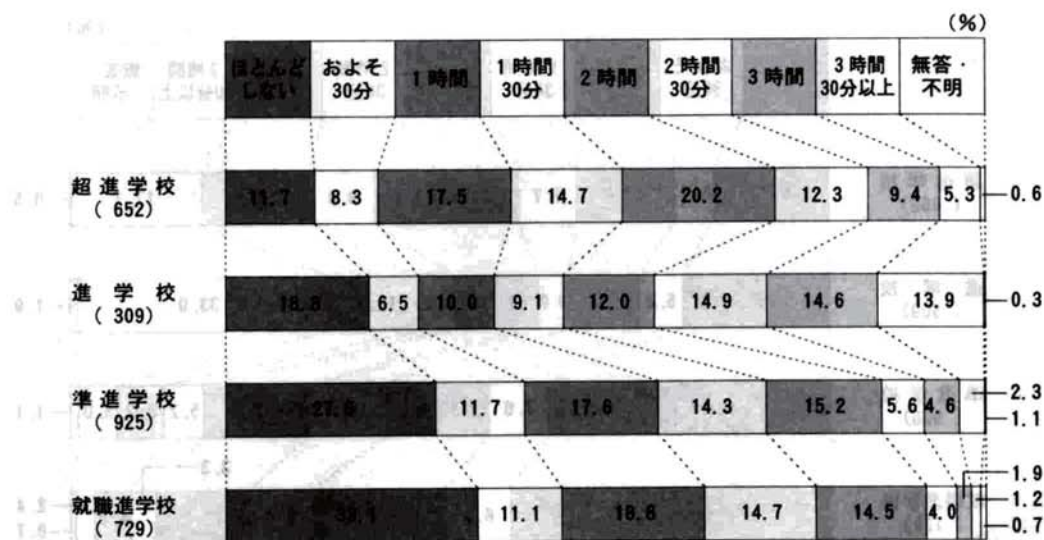
分以上の勉強時間が少ない傾向がある。ただし、第2ランクの「進学校」は特異な傾向を示している。進学校では、「ほとんどしない」者の比率が超進学校(第1ランク)と同程度か多い一方で、3時間30

図1-12 勉強時間の比較(平日、日曜日、休みの土曜日)、平日のテレビ視聴時間



注) サンプル数は2615人。

図1-13 平日の勉強時間(高校の進学状況別)



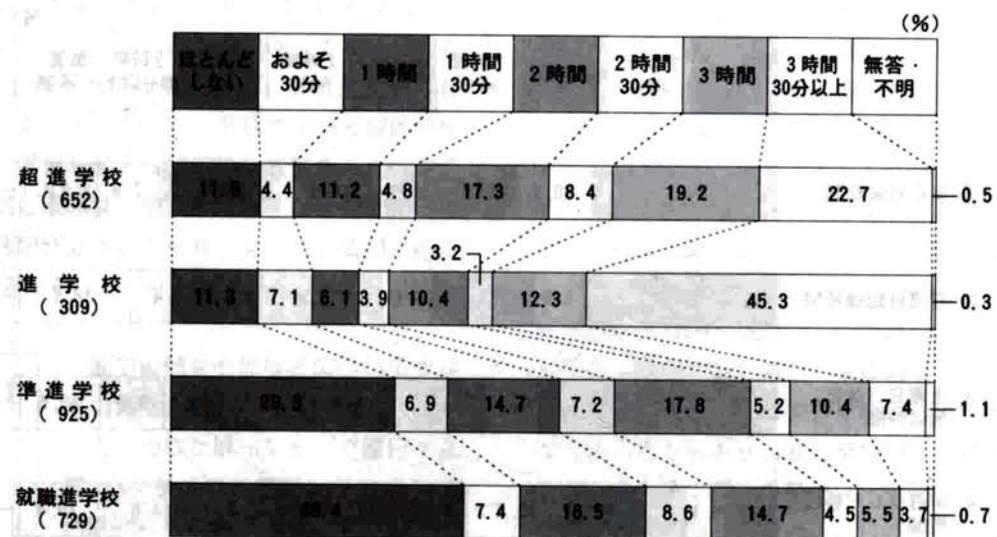
注) ()内はサンプル数。

分以上勉強する者も顕著に多くなっている。この傾向は、日曜日（進学校で3時間30分以上勉強する=45.3%）と休日の土曜日（同=33.0%）でいっそう著しい。進学校では、家

庭学習時間が著しく多い生徒が少なからず存在している。

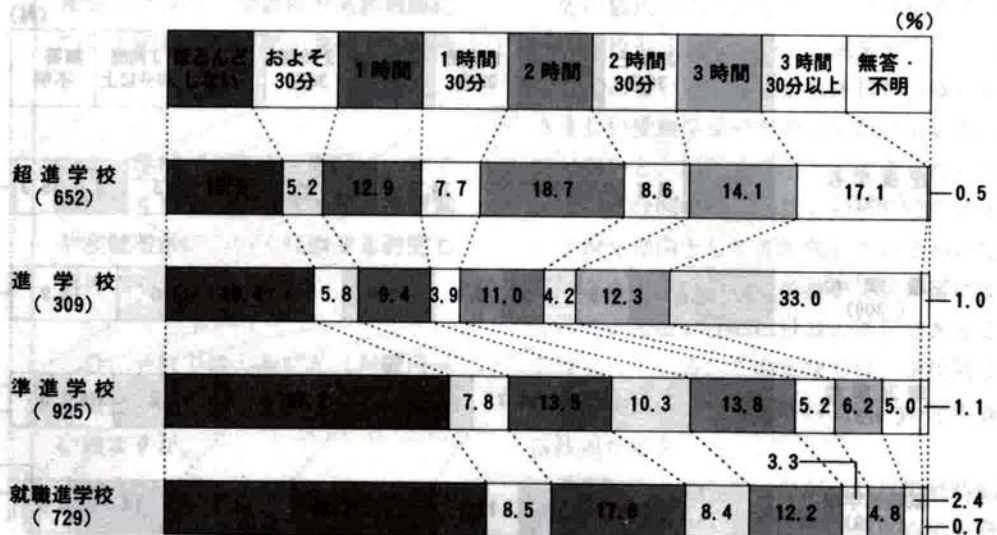
テレビ視聴時間は勉強時間と対照的に、進学者の多い高校ほど短い（図1-16）。

図1-14 日曜日の勉強時間（高校の進学状況別）



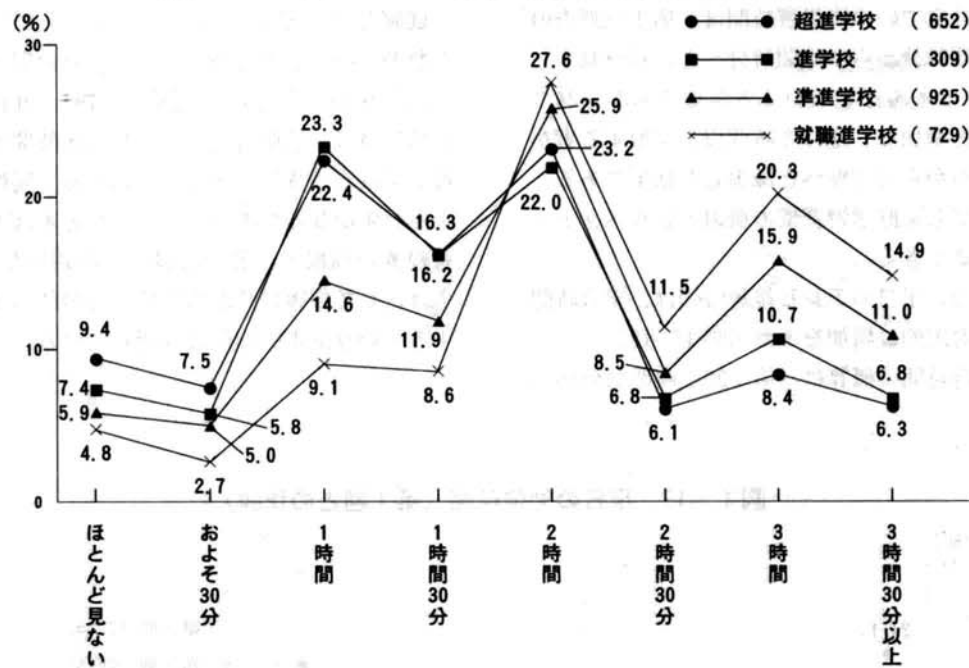
注) () 内はサンプル数。

図1-15 学校が休みの土曜日の勉強時間（高校の進学状況別）



注) () 内はサンプル数。

図1-16 平日のテレビ視聴時間（高校の進学状況別）



注) () 内はサンプル数。

〈第1回調査との比較〉

平日の勉強時間とテレビ視聴時間を、第1回調査と比較してみよう(図1-17、18)。平日の家での平均学習時間は、第1回調査の1時間32分から1時間17分へと、15分減少した。「ほとんどしない」者が16.8%から24.1%へと増加し、逆に3時間以上学習する者が17.8%から10.3%へと減少した結果である。ここでも家庭学習習慣の衰退というベクトルを確認できる。

他方、平日のテレビ視聴時間は、学習時間とは対照的に増加をみた(図1-18)。

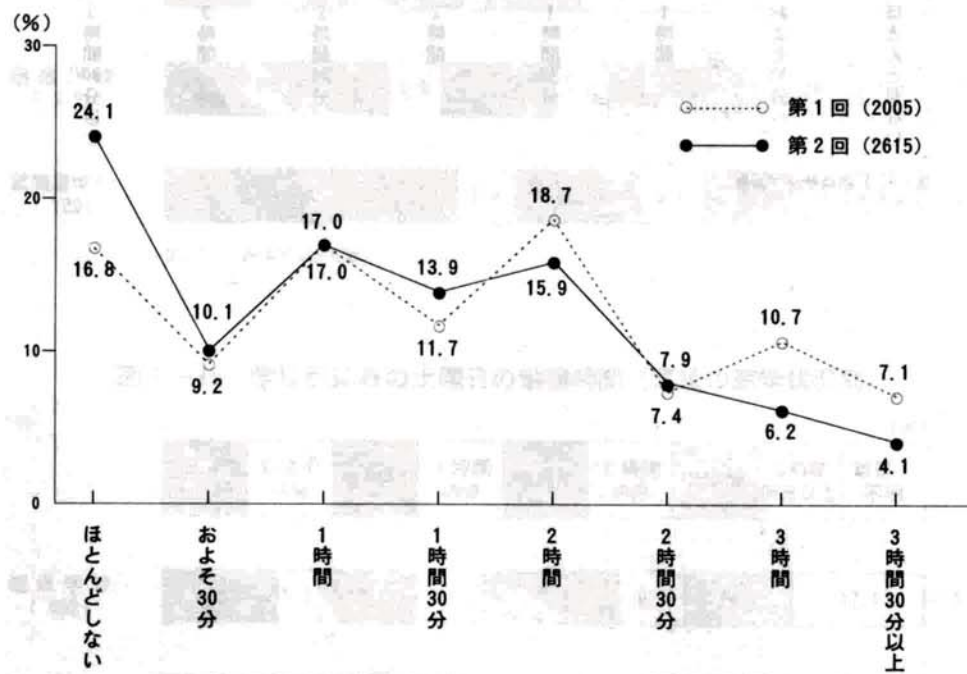
平均時間の概算は、第1回1時間46分から

第2回1時間55分へと9分長くなっている。

〈平日の就寝時間〉

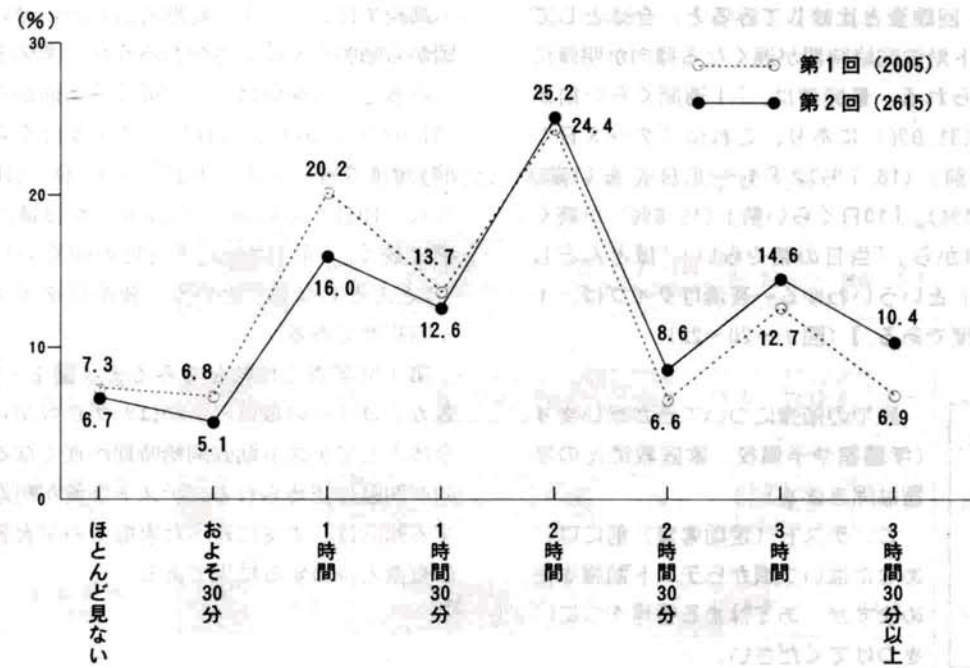
就寝時間の最頻値は午前0時(26.6%)、これを中心に午後11時から午前1時の間に8割以上が集中している(図1-19)。就寝時間の特徴は、勉強時間やテレビ視聴時間と比較してばらつきの小さなことにある。属性によるわずかな差があるものの(たとえば進学者の多い高校で、若干就寝時刻が遅いなど)、全体として午後11時から午前1時の間に就寝するという基本的傾向は共通している。

図1-17 平日の勉強時間(第1回との比較)



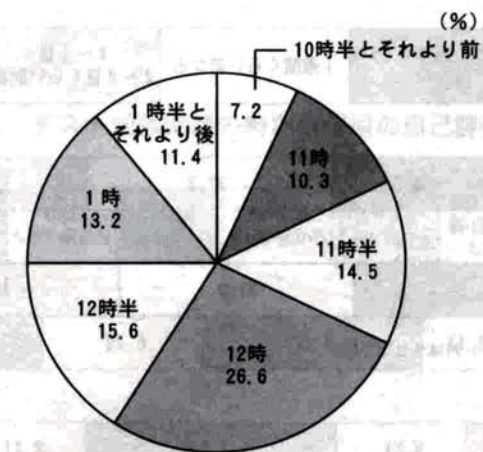
注) () 内はサンプル数。

図1-18 平日のテレビ視聴時間(第1回との比較)



注) () 内はサンプル数。

図1-19 平日の就寝時間



注) サンプル数は2615人。

3. テスト勉強の開始時期

【第1回調査と比較してみると、全体としてテスト勉強開始時期が遅くなる傾向が明瞭に認められる。最頻値は、「1週間くらい前から」(31.0%)にあり、これに「2~3日くらい前」(16.7%)、「4~5日くらい前」(16.1%)、「10日くらい前」(15.8%)が続く。「前日から」「当日の朝くらい」「ほとんどしない」といういわゆる一夜漬けタイプは、1割程度である。】(図1-20~22)

Q3

家での勉強についてうかがいます。
(学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます)

C. テスト(定期考査)前には、あなたはいつ頃からテスト勉強を始めますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

高校生は、テスト(定期考査)前にはいつ頃から勉強を開始するのだろうか。全体としてみると、最頻値は「1週間くらい前から」(31.0%)にあり、これに「2~3日くらい前」(16.7%)、「4~5日くらい前」(16.1%)、「10日くらい前」(15.8%)がほぼ同比率で続く。「前日から」「当日の朝くらい」「ほとんどしない」という一夜漬けタイプは1割程度である。

第1回調査と比較してみると(図1-20)、各カテゴリーの数値の変動はわずかながら、全体としてテスト勉強開始時期が遅くなる傾向が明瞭に認められる。テスト準備が短期化する傾向は、すでに述べた家庭での学習習慣の衰微と符合する結果である。

図1-20 テスト勉強開始の時期(第1回との比較)

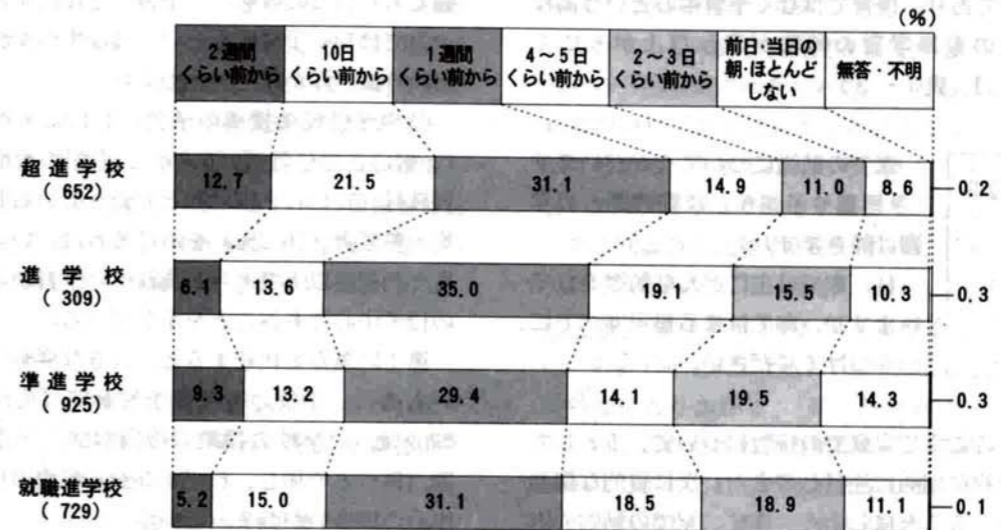


注) () 内はサンプル数。

高校の進学状況別には、意外なことに大きな差はみられない(図1-21)。ただし超進学校では、テストの2週間前あるいは10日くらい前から準備する者が多い。差が目立つのは、(学校内の)成績の自己評価別にみた

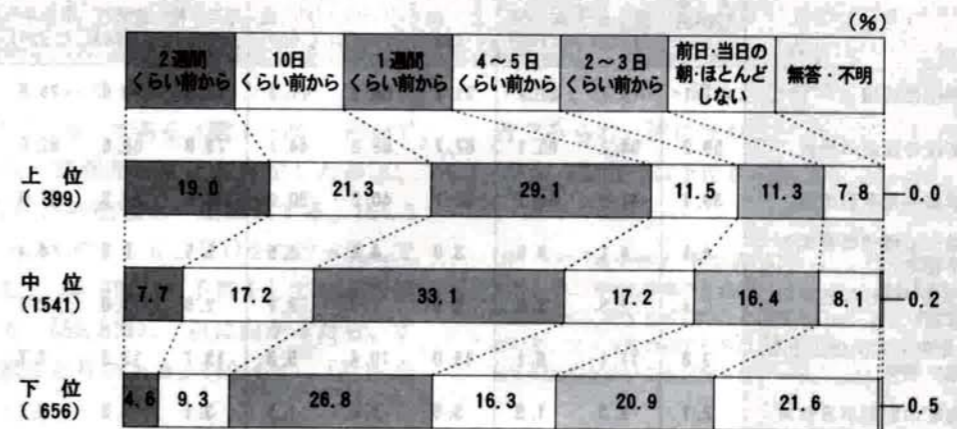
きである(図1-22)。成績上位者ほど早くから準備する傾向があり、成績下位者ではその5人に1人以上(21.6%)が、一夜漬けあるいはほとんど準備しないと答えている。

図1-21 テスト勉強開始の時期(高校の進学状況別)



注) () 内はサンプル数。

図1-22 テスト勉強開始の時期(成績の自己評価別)



注) () 内はサンプル数。

4. 家での勉強内容

【家での勉強の内容として半数を超えているのは、第一に学校の宿題(81.1%)、第二に学校の授業の予習(59.2%)である。この2つ以外はいずれも半数を切っている。学校の授業の復習をあげるのは39.1%、3分の1強であり、復習ではなく予習中心という高校生の家庭学習の特徴が浮かび上がってくる。】(表1-3)

Q3

家での勉強についてうかがいます。(学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます)

B. 家では主にどんな勉強をしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

ここまで家庭での学習について、主として量的な側面に注目してきた。次に質的な側面をみることにしよう。まず、家での勉強の内容である(表1-3)。

家での勉強の種類として半数を超えているのは、第一に学校の宿題(81.1%)、第二に学校の授業の予習(59.2%)である。この2つ以外はいずれも半数を切っている。学校の授業の復習をあげるのは39.1%、3分の1強であり、この数値を「予習」と比較すると、復習ではなく予習中心という高校生の家庭学習の特徴が浮かび上がってくる。

塾や予備校の授業の予習(4.1%)・復習(2.4%)、通信教育(9.8%)、宅配の家庭学習教材(2.1%)、書店などで売っている問題集・参考書(10.2%)をあげる者は、いずれも1割程度以下であり、高校生の学習が学校の授業中心であることを示している。

第1回調査と比較すると、大きな変動はないものの、学校の授業の予習が55.1%から59.2%へ、学校の授業の復習が36.7%から39.1%へと増加し、わずかながら学校の授業中心の度合いが強まっている。

表1-3 家での勉強の種類

(%)

	全体 (2615)	性別		成績の自己評価別			高校の進学状況別			
		男子 (1428)	女子 (1180)	上位 (399)	中位 (1541)	下位 (656)	超進学校 (652)	進学校 (309)	準進学校 (925)	就職進学校 (729)
学校の宿題	81.1	75.7	87.7	85.7	84.2	71.3	75.3	90.9	79.5	84.2
学校の授業の予習	59.2	54.2	65.1	67.7	63.2	44.7	73.8	68.6	62.6	37.7
学校の授業の復習	39.1	41.2	36.7	50.1	40.2	30.0	42.6	34.3	37.0	40.7
塾や予備校の授業の予習	4.1	4.1	3.9	3.8	4.4	3.5	5.5	0.6	4.4	3.8
塾や予備校の授業の復習	2.4	2.5	2.3	2.5	2.3	2.1	2.9	1.0	2.1	2.9
「進研ゼミ」のような通信教育	9.8	11.1	8.1	15.0	10.4	5.3	13.7	12.3	7.7	8.0
宅配の家庭学習教材	2.1	2.3	1.8	3.5	1.9	1.5	3.1	1.3	2.1	1.5
書店などで売っている問題集・参考書	10.2	12.0	8.1	21.1	9.3	5.9	15.2	10.4	7.7	9.1

注) ()内はサンプル数。

5. 家での勉強の様子

【「出された宿題をきちんとやっていく」(74.2%)、「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」(71.1%)、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」(56.1%)、「予習をしてから授業を受ける」(51.8%)、「机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる」(49.4%)、「計画を立てて勉強する」(40.4%)。全体に自主的・積極的な学習態度をとっているとする肯定的回答が目立つ。第1回調査と比較すると、すべての項目について肯定的な回答が増加しており、とりわけ「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」「机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる」で著しい。】(図1-23、図1-24)

Q3

家での勉強についてうかがいます。(学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます)

F. 家での勉強のようすについてうかがいます。1)~9)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

7割以上の生徒が「あてはまる」あるいは「まああてはまる」と回答したのは、「出された宿題をきちんとやっていく」(74.2%)と「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」(71.1%)である(図1-23)。続いて、4割から6割程度の生徒が肯定したのは、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」(56.1%)、「ラジオやテレビ、CDをつけっ放しで勉強する」(55.9%)、「予習をしてから授業を受ける」(51.8%)、「机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる」(49.4%)、「計画を

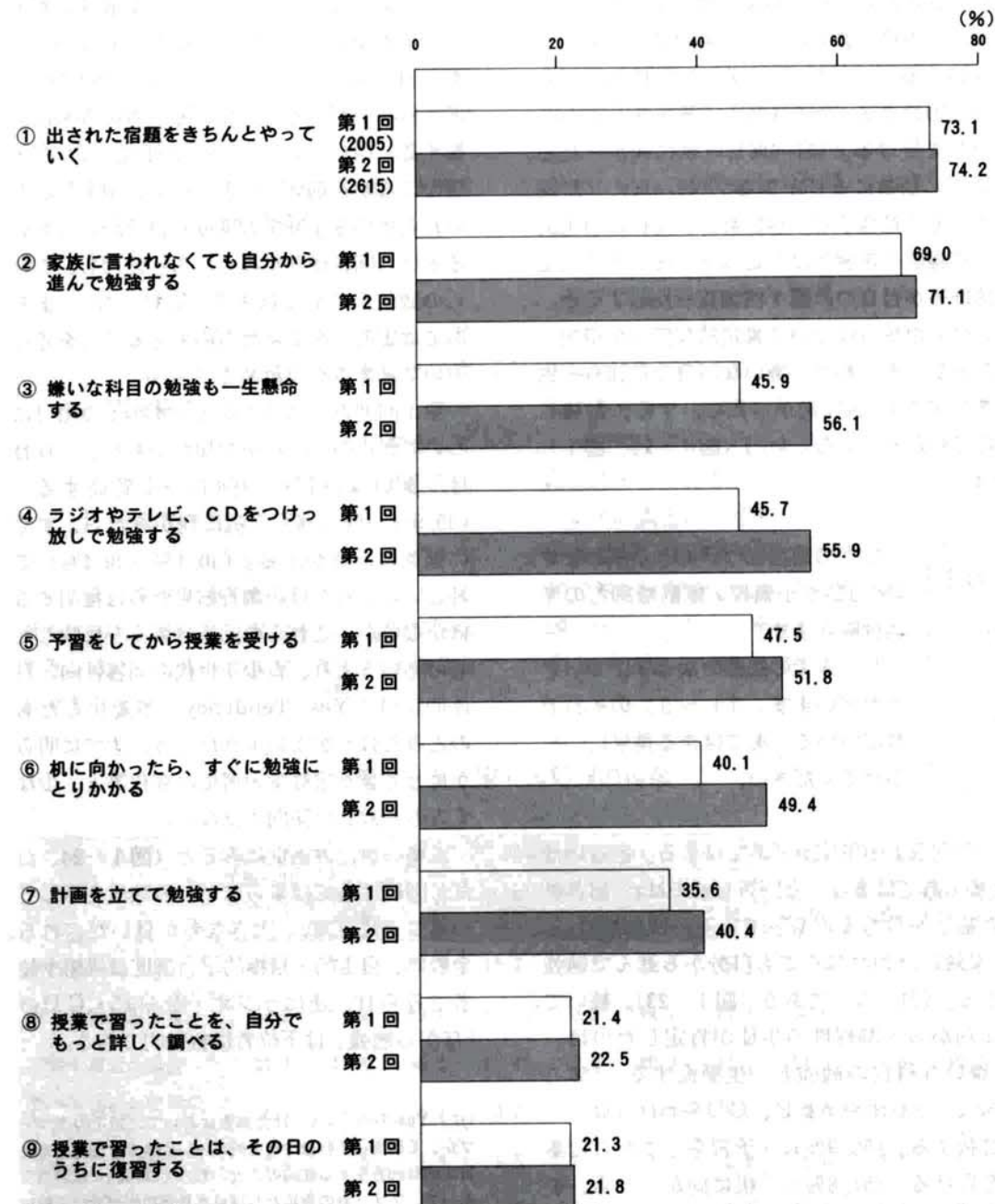
立てて勉強する」(40.4%)の5項目である。肯定率が低かったのは、「授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる」(22.5%)と「授業で習ったことは、その日のうちに復習する」(21.8%)である。総じて、(ラジオ等の「ながら勉強」を別として)望ましいといわれている家庭学習態度を自分がとっているという回答傾向がみられる。ただし、これらの数値が「あてはまる」だけでなく「まああてはまる」を加えたものであることを差し引いて考える必要がある。

第1回調査と比較すると、すべての項目について肯定的な回答が増加しており、とりわけ「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」(45.9%→56.1%)、「机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる」(40.1%→49.4%)で著しい。これだけの調査結果からは推測するほかないが、これらの回答は事実を反映したものというより、青少年世代の回答性向、具体的には「Yes-Tendency」が変化したもの^(注)とみたほうがよいように思う。すでに明らかにしてきた家庭学習習慣の変化等と、少なくとも一致した傾向ではない。

成績の自己評価別にみると(図1-24、ただし図は「あてはまらない」の数値を示していることに注意)、大きな差が見いだされる。全般に、自主的・積極的な学習態度は成績上位者でみられ、逆にラジオ・テレビ・CDの「ながら勉強」は下位者に特徴的である。

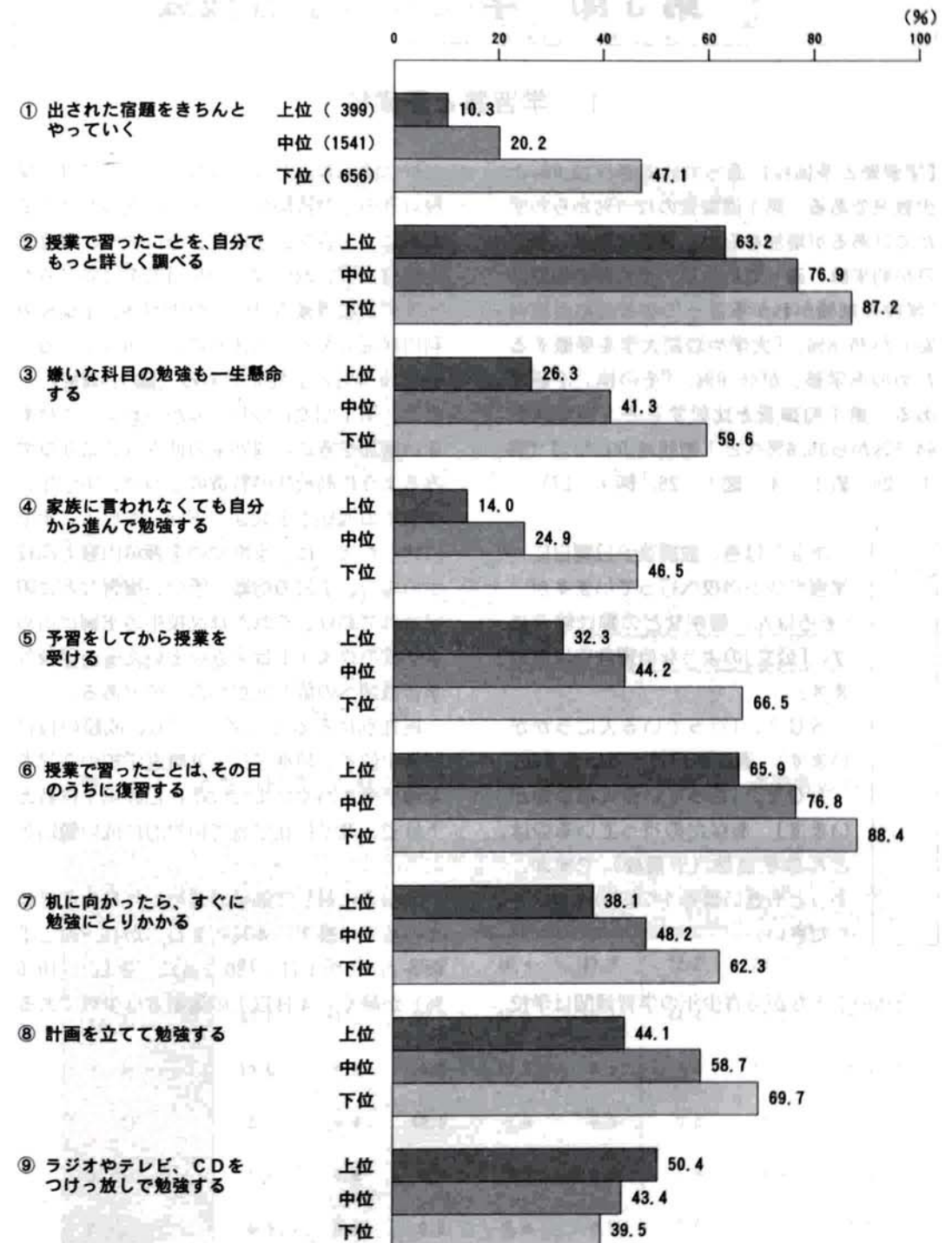
(注) Yes-Tendency 社会調査において、特定のグループが、その文化的特徴や社会的パーソナリティを背景に、肯定的な回答をする傾向のこと。たとえば国際比較調査において、アメリカの青年たちは日本青年に比べて、全般に肯定的回答が多いことが知られている。

図1-23 家での勉強の様子（第1回との比較）



注1) 数値は「あてはまる」と「まああてはまる」の合計。
注2) () 内はサンプル数。

図1-24 家での勉強の様子（成績の自己評価別、「あてはまらない」の比率）



注1) 数値は「あてはまらない」割合。
注2) () 内はサンプル数。